

第 23 回飯田市地域史研究集会を開催します

◆ 9 月 12 日 [土] 13:00 ~ 16:55

《 開会行事／飯田歴研賞授賞式 》

《 基調講演 》

山梨あや（慶應義塾大学）

「地域に根差した女性の学習

—「読む」営みを中心に—

《 自由論題報告 》

中山京子（元飯田市美術博物館専門研究員）

湯澤厚（湯沢雲揚堂）

羽田真也（飯田市歴史研究所）

画像／楯英雄氏寄贈史料（当研究所蔵）
飯伊婦人文庫資料

飯田下伊那の地域は、女性たちの働きと学びによって支えられていました。家や村の中で、農作業、養蚕、家事などの仕事に携わり、明治に入ると教員や工場という新たな場の働き手として期待されていきました。戦後の民主化の中では、読書をはじめ多様な活動を通じて社会参加の機会を広げていきます。女性を取り巻く環境が節目を迎える今、近現代の大きな変化を生きてきた女性の姿に光を当てます。

飯田下伊那の**女性**が 生きた**近現代**

2026年
9月12日 [土]・13日 [日]

飯田市役所 C棟 3 階会議室
（オンライン併用）

◆ 9 月 13 日 [日] 09:30 ~ 15:00

《 シンポジウム 》

趣旨説明 = 伊藤悠（飯田市歴史研究所）

多和田真理子（國學院大学）

田中雅孝（飯田市歴史研究所）

岡田慶（元鼎婦人会会長）

清藤奈津子（山里文化研究所）

矢澤恵（飯田市立中央図書館）

全体討論・意見交換 | 司会 = 吉田ゆり子（東京外国語大学名誉教授）

主催 飯田市歴史研究所

資料代 500円（2日間共通）

※ 高校生以下無料

◆ 申込方法：QR コード、Web サイト申込フォーム、または歴史研究所まで電話・FAX・メールでお申し込みください。

◆ 申込期間：8 月 1 日（土）～ 9 月 8 日（火）

◆ 申込内容：氏名（ふりがな）、電話番号、参加方法（会場／オンライン）、参加される日をお願いします。

※ オンライン受講の方はメールアドレスもお知らせください。

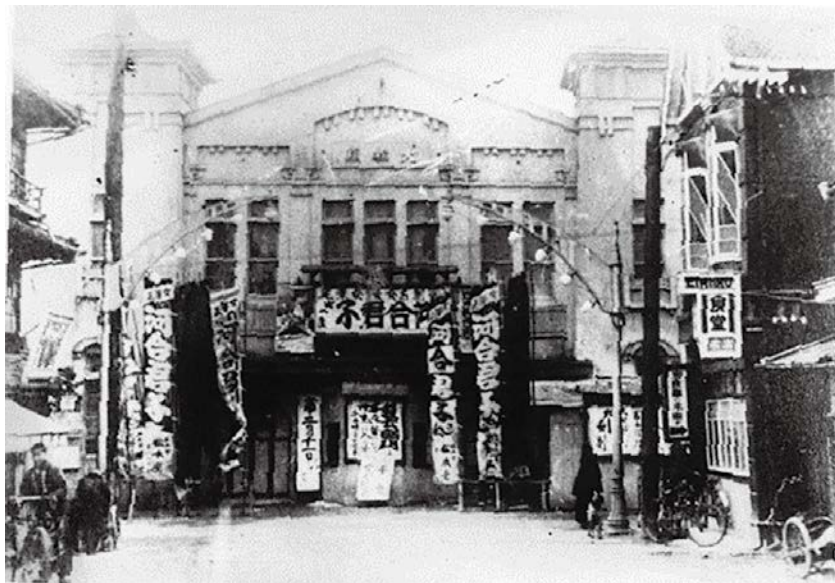
参加申込はこちら▶



研究 紹介

画像で見る 若松座・大松座

飯田市歴史研究所 特任研究員 竹村雄次



画像① 大松座 飯田市歴史研究所蔵

歴史研究所では、昨年度『画像で見る飯田歌舞伎座』を刊行しました。同書は明治末期にあった飯田歌舞伎座の建物の様相や同劇場での興行を紹介し、飯田の町に芝居を楽しむ文化(観劇文化)が定着したことを明らかにしました。この飯田の観劇文化は、飯田歌舞伎座閉場後、ますます盛んになっていきます。そこには飯田にあった劇場が、それぞれ特色ある興行を行っていたことがあります。ここではその中から若松座(昭和8年(1933年)大松座に名称変更)を取り上げます。

若松座は、令和4年(2022年)まで橋南公民館があった銀座五丁目交差点の南側の崖縁にありました。歴史研究所には大松座時代の



画像③「山口定雄 電氣作用八重垣姫」田口恒博氏所蔵



画像②『建物原簿 常盤町』より若松座
飯田市歴史研究所蔵

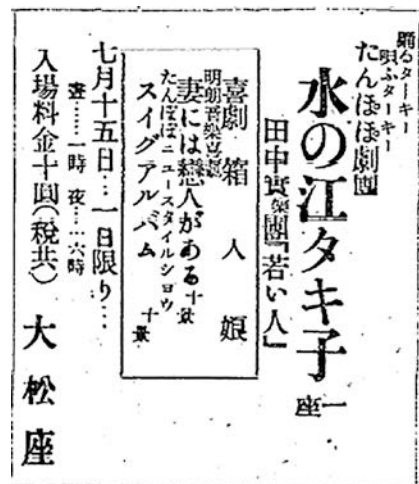
までの1年半で140を超える興行の広告がありました。歌舞伎の澤村宗十郎、中村吉右衛門。歌手の霧島昇、並木路子、東海林太郎。浪曲の広沢虎造。日本舞踊の花柳徳兵衛。他にも水の江タキ子の広告がありました(画像④)。

残念ながらこの劇場は昭和22年4月の飯田大火で焼失し、幕を下ろしました。

写真が残ります(画像①)。いわゆる看板建築で、壁面上層部に横書きで大松座と書かれています。左右に展望台のようなものを持つ意匠が特徴です。この建物については、歴史研究所所蔵の『建物原簿』に登記があり(画像②)、間口9間(16.2m)奥行16.5間(29.7m)と規模がわかりました。

興行としては先進的なものが多かったのが特色です。明治40年には、新派劇の人気役者、山口定雄が来ています。電気を使った演出で観客を驚かせました。ところが山口は公演中に急死して、飯田の興行者が長源寺にお墓を作っています。画像③は山口を描いた錦絵。飯田市内のお宅に保管されていたもので、飯田で亡くなったことで買い求めたのでしょうか。

この劇場が最も輝いたのは、昭和期の終戦直後です。当時の飯田の新聞、新信州日報には、創刊の昭和20年11月から飯田大火



画像④ 新信州日報
昭和21年7月13日広告
飯田市立中央図書館所蔵

ミニ リレーエッセイ④④



戦後初の総選挙と女性たち

本島 和人(歴史研究所調査研究員)

1946年4月10日に行なわれた戦後初の総選挙は20歳以上の男女による普通選挙、大選挙区・3名連記制。長野県は定数14名に78名(飯田・下伊那8名)が立候補した。トップ当選は長野市に疎開していた34歳の安藤はつで、133,945票(2位の保守元職に4万票余の大差)。飯田・下伊那での得票は9,794票で6位。飯田・下伊那8候補の最高位は「確実に当選するものと思われていた」天龍社をバックにした木下照一、だが41,060票で19位、8候補全員が落選。全国では39名の女性が当選した。安藤がトップ当選したのは、定数14名の大選挙区・3名連記制で、戦時期から続く勢力を支持基盤とする男性候補ではなく、「平和」「女性の地位向上」を掲げて、投票権を得た女性たちの支持が集まったからである。

安藤の晩年の回想がある。「教師をやっていたので、人さまの前でしゃべることは慣れていました。遊説は列車で、第一声は飯田。72歳のお婆さんが「女は演説会場にも入れてもらえなかったのに、ありがたい世の中になった」と赤飯を差し入れてくれたり、夜遅くまで青年団の会合に呼ばれたり。……当面出来そうもないことより赤ちゃんの授乳や大豆の輸入を訴え、やっぱり女のことは女と大変受けたようです」(『信濃毎日新聞』1983年7月4日)。

「第一声は飯田」の様子が興味深い。下伊那では総選挙と前後して戦時期の国防婦人会・大日本婦人会に代わって新たな婦人会設立の動きが松尾・鼎村などで始まり、この年5月に飯田駅前に設置された飯田引揚者相談所の運営は飯田市婦人会、下伊那郡連合男女青年団であった。敗戦直後、女性と青年たちが地域社会を足元から支える力になっていたことがうかがえる。

1947年3月日本国憲法施行を前に吉田茂首相は解散した。戦後2度目の総選挙は中選挙区・単記制で行なわれ、長野1区(定数3)に立候補した安藤は6,187票、8位で落選、在任期間はわずか1年。女性が国会議員として活躍するまでには長い年月を要した。

飯田アカデミア2026 第110講座 開催のお知らせ

浮世絵で知る江戸文化 — 葛屋重三郎、歌麿、そして北斎 —

◆開催日 2026年9月27日(日)

第1講 13:30 ~ 15:00

浮世絵と江戸のメディア文化

— 葛屋重三郎と喜多川歌麿 —

第2講 15:15 ~ 16:45

海をわたったUkiyo-e

— 葛飾北斎はなぜ愛されるのか —

◆会場 飯田市役所C棟3階会議室
(オンライン併用)

◆講師 藤澤 紫さん(國學院大學)

◆資料代 500円(高校生以下無料)

講師より

「江戸庶民文化の華」とも称される浮世絵は、17世紀後半に誕生し、江戸の重要なメディアに成長しました。特に錦絵と称される色鮮やかな木版画は、国内、海外で高い評価を得ています。その発展を支えたのは、版元や絵師、彫師や摺師などの出版業界に携わる面々でした。今回は版元の葛屋重三郎と絵師の喜多川歌麿が手掛けた名品を介し、誕生から約100年を経て黄金期を迎えた浮世絵と出版業界との関わりを紐解きます。さらに葛飾北斎の作品に見る異国情緒、そして彼の作品が19世紀後半の欧米圏に与えた影響について、最新の調査結果を交え紹介します。足かけ200年に及ぶ浮世絵と国際交流の旅を、沢山のスライドやレジュメと共に楽しんで頂けたら幸いです。

◎申込方法: QRコード、Webサイト申込フォーム、または歴史研究所まで電話・FAX・メールでお申し込みください。

◎申込期間: 8月18日(火) ~ 9月19日(土)

◎申込内容: 氏名(ふりがな)、電話番号、参加方法(会場/オンライン)をお願いします。

※オンライン受講の方はメールアドレスもお知らせください。

※詳しくは飯田市歴史研究所のWebサイトをご覧ください。

参加申込はこちら(8/18 ~) ▶



受講生
募集中!!

歴研ゼミ&ワークショップ

8月・9月の予定

会場: 歴史研究所 研修室



近世史ゼミ

「飯田御用覚書」を読む

8月12日・26日 / 9月9日

第2・4水曜日 18:30 ~ 20:30

担当: 羽田真也(研究員)

建築史ゼミ

大火後の飯田市街の
空間を調べる

8月21日 / 9月18日

第3金曜日 18:30 ~ 20:30

担当: 岩田会津(研究員)

地域史ゼミ

大正期 LYL 事件の
刑事記録を読む

8月休講 / 9月17日

第2木曜日 13:30 ~ 15:30

担当: 伊藤 悠(研究員)

思想史ワークショップ

日記から読み解く
個人理解

8月5日・19日 / 9月2日・16日

第1・3水曜日 16:00 ~ 18:00

市民の皆さんが自主的に学び合う場

満洲移民研究ゼミ

文書・記憶・個人の
記録から考える

第175回 8月1日 / 第176回 9月5日

第1土曜日 10:00 ~ 11:40

担当: 本島和人(調査研究員)

近現代史ゼミ

昭和12年
胡桃澤盛日記を読む

8月22日 / 9月26日

第4土曜日 10:00 ~ 11:40

担当: 田中雅孝(調査研究員)

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

開所時間: 午前9時~午後5時 休所日: 日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日

メール配信をご希望の方は、E-mail: iih@city.iida.nagano.jp まで